

前死点監視に特化した製品の
高品質を守るユニット

前死点監視装置

Seat-Dead Point Checker



シートパネル化で保守性向上

前死点監視装置はシートパネルを採用し、当社旧モデルと比べて操作性・耐油性が向上しており、油煙の浸透によるユニット故障が起こりにくい構造となっています。

互換性があり置換作業が簡単

旧モデルとユニットのサイズが同じで、完全互換（一部異なる場合があります）となっており、従来の配線を繋ぎ変えるだけで簡単に置き換えができます。面倒な作業は不要で、工事担当者様にご負担をかけません。

高精度な検出

死点部分での位置検出による品質管理をより高精度にするため、位置検出センサーを2カ所設置することで実現しました。異常の検出にはセンサー別、異常項目毎に設定値を登録することが可能となり、より高品質な加工精度を実現します。



計測値表示機能

タイミング信号がON→OFF時の計測値を取り込んで、絶対値として表示し異常の有無を検出します。また相対値として、過去100回分のデータの平均値（100回未満の場合はそれまでの平均値）と最新絶対値との差を表示し、異常を検出します。

異常検出機能・異常信号

計測荷重に対して任意の設定値（上限、下限、前回比較）との比較を行い、異常有無の判定を行います。異常発生時には異常信号を出力し、外部装置へ通達します。異常信号の停止は、パネル操作または外部信号の入力により制御が可能です。

初期未検査数機能

機械運転開始時等の不安定動作による荷重測定値にて異常検出を行わないようにする機能です。全ての異常検出機能に対して有効です。機械停止状態が15秒以上続いた場合、外部からのリセット信号入力、送り信号がOFFになった際に初期未検査数は再度カウントを行います。これは機械停止や圧造加工されていない状態によっては、工具等が冷えて、過去の平均値が検査対象にできない場合があるためであり、緩やかな温度変化にも対応できるようになっています。

ダイレクト表示機能

荷重計のメンテナンス時等に使用し、計測用センサーと各入力信号の状態を確認することが可能です。

過去計測値呼出機能

過去100回分の計測値および異常発生状況の確認が可能です。

商品仕様

型式	SDPC
名称	前死点監視装置
測定仕様	ピーク値表示
構造	単体設置型
使用センサー	渦電流式変異センサー
表示桁数	絶対値：4桁数値 相対値：符号付4桁数値
入力	センサーA、センサーB(専用ケーブル入力) 同期信号、送り信号、異常リセット入力、 NPNオープンコレクタ 内部アイソレーション電源 DC24V
出力	異常信号、補助信号 NPNオープンコレクタ 最大50mA (DC24V以下)
定格：電源電圧	AC100V±10% 50/60Hz
消費電力	約 200VA
寸法	407.2(W)×175.2(H)×300.0(D) mm

※本仕様は断り無く変更になる場合がございますので予めご了承下さい。

《お問い合わせ先》